

## 2018年（平成30年）第6回社員総会 会長挨拶



第6回社員総会を開催するに当たり一言ご挨拶申し上げます。早いもので、本会が2013年3月に一般社団法人に移行してから、丸5年が経過しました。

この法人改革の是非はともかくとして、私はこの間公益性を保ちながら、歯科技工士の経済問題解決を施策の中心に掲げた会務運営を心掛けて参りました。

しかし、技工料金の制度化問題は遅々として進まないどころか、今般、日技や日技連盟の事業計画の施策から、昨年度まで掲げられていた「歯科補てつ物等の作成に係わる費用の適正な評価を求め、社会保険診療に係わる製作技工に要する費用が担当者に正当に届くための渉外活動を行う」との方針が消えました。

インターネット上では、卒後早くに離職した若い技工士さんの「危険。きつい。汚い」の3K記事で溢れ、技工士学校の入学者も国家試験合格者も1,000名を割り、近い将来には歯科技工士の絶対数不足が叫ばれ、しかも政府がようやく重い腰をあげ、今国会の最重要課題として位置付けている「働き方改革関連法案」がようやく議論されようとしている時にです。

この問題に対する私の思いは、「医療機関はどこでも同一の医療行為に対しては一定の金額を請求し、患者は一定の金額を支払う国民皆保険制度下で、歯科技工料金だけは何故、自由競争に晒(さら)されているのか」という、実に素朴で単純なものです。

資本主義社会ですから、競争をしたくない等という考えは毛頭ありません。唯、『料金競争』ではなく『技術競争』をしたいだけです。どこの技工所に出しても同一料金であれば、先生方は何を基準にして補綴物を委託されるでしょうか？。きっと、技術の優れた技工所に委託されるはずです（ただし、補てつ物の善し悪しを選別できない先生は別ですが……）。

「安かろう、悪かろう」という現況が続くようであれば、粗悪品の補てつ物が蔓延し、同じ医療費を支払っているのに、それらを嵌められる患者さんはたまたまではあります。最近、医療訴訟が多くなっているのは、このような所にも一因があるのではないかでしょうか。

これまで、幾度となく「技工料金問題は政治家や行政、日歯・日技のみが悪いのではない。自ら安売りする歯科技工士自身が一番悪い」と言ってきました。その考えは今でも変わりませんが、この業界は個々人が勝手に料金を決められる環境にはありません。委託する側と委託される側の社会的地位の格差が余りにもあり過ぎるからです。だからこそ、大臣告示が発布された当時は、「優越地位の乱用」という言葉が引用されて、普及活動が行われました。

日技が公益社団法人を取得したために、「公益事業の施策に重点をおいたボランティア活動に励み、歯科技工士のナショナルセンターとしての役割を果たす」との考えに、異議を唱えるつもりはありませんが、会員の生活が成り立ってこそその組織あります。この組織はライオンズクラブではないのです。

この方針転換に至るまでに、日技で何が起こったかを知る由もありませんが、日技は歯科技工士の組織離れをどのように考えているのでしょうか。経済問題が最たる要因だと思いますが、来る7月16日に開催される第7回日技社員総会において、しっかりとお尋ねして参りたいと存じます。

ともあれ、中央レベルでの技工料金問題解決を待っていては、地域組織の一つである本会は崩壊の憂き目にあってしまいます。そのような事態になるのを避けるために、後程、担当理事発案による「組織拡充アクションプラン」に基づいた具体策について、真摯に議論していただきたいと存じます。

他にも種々の議題がありますが、本年度は役員改選の年もあります。新旧役員は勿論のこと、全会員が先輩諸氏が築き上げてきたこの組織を、後に続く後輩達に如何にして引継ぎ、発展させていくべきかを見極めてください。その上で、この崇高な目的を達成するに相応しい人材を選出していただきますことをお願いして挨拶といたします。

2018年6月10日  
一般社団法人宮崎県歯科技工士会 会長 宮 永 齊